舞鶴市総合文化会館 EVENT SCHEDULE
イベントスケジュール

※情報は2026年10月時点のもので内容は変更される場合があります。
※毎週月曜日休館（祝日の場合はその翌日）

2026 11 NOVEMBER

01（日）
〈舞鶴市総合文化祭〉
舞鶴演劇サークル谺
第13回 定期公演
会場 小ホール
時間 14:00~
料金 無料
主催等 舞鶴演劇サークル谺
TEL 0773-62-4764

07（土）
「360° ミュージックシアター」
~フルートとピアノ・音の真ん中で~
会場 小ホール
時間 14:00~
料金 一般／2,000円
高校生以下／1,000円
（当日 各500円増）
主催等 舞鶴市（総合文化会館）
TEL 0773-64-0880
▲10月号特集記事

15（日）
〈舞鶴市総合文化祭〉
第23回 舞鶴和太鼓フェスティバル
会場 大ホール
時間 13:30~
料金 大人／300円
（当日 大人／500円）
中学生以下／無料
主催等 舞鶴和太鼓連盟
TEL 090-2041-5670

23（月・祝）
第51回 舞鶴市民合唱祭
会場 大ホール
時間 13:00~
料金 無料
主催等 舞鶴市合唱連盟
TEL 0773-62-4046

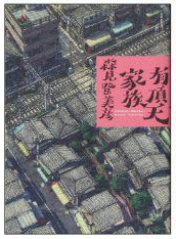
23（月・祝）
〈舞鶴市総合文化祭〉
舞鶴クラリネットアンサンブル
第22回 定期演奏会
会場 小ホール
時間 14:30~
料金 無料
主催等 舞鶴クラリネットアンサンブル
TEL 090-8858-5146

29（日）
〈舞鶴市総合文化祭〉
恋さんバンド 歌謡ショー
会場 小ホール
時間 12:00~
料金 無料
主催等 恋さんバンド
TEL 090-3729-3750

コレ読んだ?!
今月の選者 泉源寺在住の狸／30代



今月の作品



有頂天家族
“家族に、ちょっとだけ優しくなれる一冊”

主人公、狸。想い人、人間。師匠、天狗。
京都を舞台に、奇妙な三角関係が交差したり、しなかったり。
何より狸が、めちゃくちゃ狸を謳歌している。
化けるし。食べるし。喧嘩するし。で、たまに家族を思いやるし。
とてもくだらなくて、とても温かい。

森見登美彦らしい、京都と奇想とユーモアがこれでもかと詰まった一冊。

狸も人間も天狗も好き勝手やっている。なのに、読み終わる頃にはなんだか少し愛おしくなっている。

「有頂天家族」
■著／森見 登美彦
■幻冬舎

▶『コレ読んだ?!』では、あなたのオススメの本を大募集！あなたの投稿が記事になるかも?!
投稿はコチラ

まいづるまちなかアートアラウンド
―まちなかを歩く、小さな旅人たち―

舞鶴市内の身近なスポットにアートを点在させ、まち全体で文化的な魅力を発信する「まいづるまちなかアートアラウンド」を開催中。市内の店舗や公共施設などの身近なスペースを会場として、約1か月ごとに巡回しながらアート作品を展示します。

まちなかアートアラウンド 展示スケジュール 11月
- 10/27（火）▸11/20（金） 社会福祉法人成光苑 ライフ・ステージ夢咲
- 11/21（土）▸12/18（金） 京都丹の国農協 舞鶴西支店

詳しくはコチラから

あなたの声をお聞かせください
アンケートはコチラから

「月刊コレレ」は舞鶴の文化や人、素敵な活動とみなさんをつなぐ情報誌を目指しています。「こんな記事が読みたい！」「ここが良かった」など、どんなことでも大歓迎です。みなさんからいただいた声を、これからの「月刊コレレ」づくりに活かしていきます。

「月刊コレレ」創刊の経緯

新しくなった「月刊コレレ」はいかがですか？
「文化事業企画懇話会」で出た意見をもとに、「より多くの市民の皆さまに親しみやすく、文化に触れる間口を広げたい」という思いで編集部のメンバーと取り組んでいます。誌名に込めた「耕す」「育む」という想いとともに、皆さまと舞鶴の文化を育てていければ幸いです。（文化・国際課）

―制作スタッフ―
編集長 YOSSHI.（LA CLASSIC）
執筆 下村仁志（Gallery koko）
写真 大西紗生（ホシツ PHOTO）
PM 椿幸恵 一般社団法人（桜artアンサンブル）
デザイン 葛谷祥子 一般社団法人（桜artアンサンブル）
協力 坂本真由美 京都府地域アートマネージャー

〈問合せ先〉舞鶴市生涯学習部文化・国際課 TEL0773-66-1019
〈発行年月日〉2026年11月1日
〈発　　行〉舞鶴市生涯学習部文化・国際課
〈編集・制作〉舞鶴市文化情報誌「月刊コレレ」編集部

舞鶴市文化情報誌 COLERE ―月刊コレレ―
「月刊コレレ」は舞鶴市総合文化会館などで開催される文化イベントの情報誌です。

『舞鶴市文化情報だより』リニューアル第2号！ Cultural Event Guide for Maizuru

COLERE

コレって？コレレ！

2026.11月号
月刊コレレ
vol.2

世代を越えた「泥遊び」

『COLERE（コレレ）』は
「耕す」「育む」を意味するラテン語であり「文化（Culture）」の語源でもあります。
本誌は、地域の文化・芸術やイベントという「コレ＝種」を見つけ
みなさんと一緒にまちの土壌を豊かに耕していくカルチャー情報誌です。

舞鶴市陶芸館

スマホの通知、溢れるタイムライン。
日々のスピード感にちょっと疲れたら、雄大な青葉山のふもとで静かに佇む「舞鶴市陶芸館」へ向かってほしい。
ここはかつて市民の熱い想いによって誕生した全国でも珍しい公営の陶芸施設です。
今回は、立ち上げからこの館を支える陶芸家であり、気さくな館長でもある高井晴美さんにお話を伺いました。

**人間にはコントロールできない
窯（かま）の中の神秘。
だからこそ、また次の作品を
つくりたくなる。**

陶芸館館長：高井　晴美さん

市民の熱意で生まれた、青葉山の「隠れ家」



――木の香りと窓いっぱいに広がる豊かな青葉山の自然。前庭からの光がふんだんに差し込む開放的な館内に一歩足を踏み入れるだけで、不思議と心が凪いでいく。実はこの美しい木造の建物、周囲の山の地形に寄り添うように、緩やかな弓形に設計されているのだという。そんな自然と調和した施設は、30数年前に市民が起こした「署名運動」から始まった。

高井　私がちょうど京都での修行を終えて、30歳で舞鶴へ帰ってきた頃のことです。当時は市内に陶芸をやりたい人がたくさんいたのですが、作品を焼く「窯（かま）」がなかった。みんな作りたい想いはあっても、肝心の焼く場所がない状態だったんです。そこで「みんなで使える大きな施設を作ってほしい」と署名運動が始まり、その熱意が実を結び、全国でも珍しい公営の陶芸施設が誕生しました。

――驚くべきは、その開かれた運営体制だ。専門知識を持つ職員が常駐し、初めての人から長年通う愛好家までを優しくサポートしている。

高井　公営の施設として、多くの方が芸術に触れてもらえるような環境づくりを心がけています。どなたでも気軽に一歩を踏み出せる利用しやすい料金になっているので、初めての方から「この金額で本格的に始められるの？」と驚かれることもあります。ここでは「これを作りましょう」というルールは一切なくて、初心者の方にとって本当に一歩を踏み出しやすい場所なんです。

本格的な環境を活かす、世代を超えた「泥遊び」



――館内にずらりと並ぶ5台の電動ろくろ。そして、作品を焼き上げる窯は用途に合わせて大・中・小と3基も備えられている。

高井　京都府内を探しても、これほどの施設はなかなかないと思います。ここには陶芸を専門に学んできたスタッフがいますから、分からないことはいつでも気軽に聞いていただける環境です。それに、本格的に陶芸をしようと思うと、実は「自分の窯を持つこと」が、若い作家にとって大きな壁になります。窯は300万円以上することもあります。ここではそんな憧れの設備を、初めての方からベテランさんまで、みんなで贅沢に共有できるんですよ。

――さらに、初めて土に触れる人でも「のびのびと創作に没頭できるように」という、プロならではの優しい気配りも用意されている。

高井　陶芸体験では、砂や粒（シャモット）を混ぜて乾燥時の収縮を抑えた、割れにくい特別な土を用意しています。逆に上級者向けには、扱いが難しいけれど滑らかで繊細な表現ができるきめ細かな信楽の土を、私が現地まで直接足を運んで選んでいます。失敗を怖がらずに、時間を忘れて土と呼吸を合わせる楽しさを、まずは知ってもらいたいですね。

今も胸を躍らせる、窯という名の「タイムカプセル」

――初対面の緊張をほどいてくれたのは、高井さんの純粋さだった。こちらの問いかけに、聞けば聞くほどまっすぐ心をひらいてくれる温かさ。そんな原点にあるのは、生まれ育った舞鶴の「成生（なりゅう）」の海だ。彼女の窯も、その愛おしい故郷の地名から「成生窯」と名付けている。

高井　私の原点は、幼い頃に成生の海で遊んだ砂の感触や、泥遊びの記憶なんです。幼い頃に毎晩聞いた波の音や会話は私にとっての子守唄であり、五感の記憶すべてが土を通して形になっています。だから自分のテーマを決める時『私は海の作家になりたい』と迷わず決めました。

――そう語る彼女は、日本最高峰の美術展「日展」に21回の入選実績を持つ。長く第一線で創作を続けられる理由を訊くと、彼女は目を輝かせてこう答えてくれた。

高井　焼き物は窯から出してみるまでプロでも分かりません。失敗することもたくさんありますが、その思い通りにいかない驚きがあるからこそ焼き物は面白くて、また次をつくりたくなるんですよ。

**――常に一流でありたいと、努力と研鑽を重ね磨き上げてきた極限の技術。それでもどうなるか出してみるまで窯にゆだねる覚悟。その狭間で生まれる奇跡を面白がる姿にこそ、陶芸という表現のロマンがある。
最後に、これから陶芸館に訪れる読者へ向けてメッセージをいただいた。**

高井　失敗なんて気にせず、世界に一つしかない、自分の大好きなものを作りに来てくださいね。

――スマホの通知、溢れるタイムライン。日々のスピード感にちょっと疲れたら、陶芸館で土をこね未来へと想いを馳せてみてはどうだろうか。陶芸というタイムカプセルは時間を委ねることでひらかれるのだ。

（インタビュー・文／編集長 YOSSHI。）



舞鶴市陶芸館 11月体験講座 SCHEDULE



青葉山ろく公園内にある舞鶴市陶芸館は、子どもから大人まで陶芸を楽しめる施設です。
初心者向けの陶芸体験をはじめ、電動ろくろや絵付け、継続して学べる各種講座を実施しています。



陶芸体験コース（手びねり）

日時　随時
所要時間　60～90分
料金　大人／1,100円、小・中学生／800円
申込　事前予約

陶芸体験コース（ろくろ体験）

日時　11月21日（土）9:30／11:00／14:00
所要時間　各回60分　料金　大人／1,400円
定員　各回5人　小・中学生／1,100円
申込　事前予約　幼児／1,000円

場所　舞鶴市字岡安3-2（青葉山ろく公園内）
申込・お問合せ　舞鶴市陶芸館　TEL・FAX 0773-64-3263
開館・受付時間　9:00～17:00　休館日　毎週月曜日（祝日の場合はその翌日）

詳細は陶芸館まで
舞鶴市陶芸館 WEBサイト

子どもたちの 集え!!アート・アベンジャーズ! オリジナル文化祭「MAI FES.」（マイフェス） 発表者募集!

“好き”をカタチに!

“好き”の力で誰かの心を動かす小さなアートヒーローたちが集い、互いの“好き”を響かせ合うオリジナル文化祭です。
主役になって、ここでしかできない経験をしてみませんか？

- **舞台**（ステージ発表（1組30分以内）※準備・撤収含む）：歌、ダンス、演奏など
- **展示**（作品の展示）：絵画、イラスト、生け花、写真など
- **その他**（舞台・展示以外の文化芸術活動の披露）：プログラミング、将棋、ボランティアなど

日程　令和9年1月31日（日）　会場　舞鶴市総合文化会館
対象　市内在住の中学生を中心とした団体、または個人
申込方法　専用フォームから申込みまたは申込用紙（市役所に設置）を文化・国際課窓口へ提出
申込期間　令和8年11月15日（日）まで

お申し込みはコチラから！ ◀申込フォーム
詳しくは、舞鶴市ホームページをご覧ください。 ◀舞鶴市HP

1時間で60回笑う！即興パフォーマンス集団 ロクディム 舞鶴ライブ 11月22日チケット発売!!

日時　2027.2.27（土）sat　start 14:00～（開場 13:30）
場所　舞鶴市総合文化会館 小ホール
料金　一般 2,500円／高校生以下 500円（各税込）（当日券は各500円増）※3歳以上有料　※0歳から入場可　全席自由
ご予約・お問合せ　舞鶴市総合文化会館 TEL 0773-64-0880
11月22日（日）　会館窓口／9:00～、電話予約・プレイガイド・オンライン／13:00～

チケットのお求めは
店舗（受付時間各店17:15まで）
■舞鶴市内……舞鶴市総合文化会館／エール東舞鶴店（らぱーる）／バザールタウン舞鶴
■綾部市内……バザールタウン綾部アスパ　■その他の地域……にしがき全店
ローソンチケット　Lコード：51069
オンラインチケット　https://www.s2.e-get.jp/maizuru/pt/



台本のない即興演劇（インプロ）×即興コメディのパフォーマンス集団「ロクディム」。2027年2月27日（土）の公演に先駆け、2026年11月16日（月）～18日（水）に市内の小中学校で特別なワークショップを開催。「相手の話を聞き、受け取る、伝える」日常会話を遊びながら重ね、心地よい関わり方を体感します。学校現場で190回以上実施され、安心感に満ちたプログラムです。

ロクディムYouTube ▲

※即興演劇（インプロ）とは、台本や事前の打ち合わせがなく、その場のお題や観客の声から瞬時に物語を紡ぐ演劇のことです。